



甲南第一小学校だより

第一っ子



令和4年11月30日

(2022年度)

第8号

甲南第一小学校

季節を感じながら「豊かな感性」を培う

朝夕冷え込むようになり秋の深まりを感じる季節となりました。校庭や周りの山の木々の葉も秋色に染まり「紅葉（こうよう）」の深まりの美しい時期を迎えています。一方、先月には初雪の便りがあり、近畿地方でも木枯らし1号が吹くなど早くも冬の足音も聞こえ始めました。

コロナウィルスに関しましては、未だ収束せず感染拡大第8波に入りました。今後も気を緩めずコロナ「対策」と「対応」をしっかりと続けていきます。ご家庭や地域におかれましても引き続き感染予防への取組をよろしくお願いいたします。

さて、冒頭でもお話ししましたように、今年も早いもので12月となり、「紅葉（こうよう）」の美しさも深みを増しています「紅葉（こうよう）」と言えば、だれもが思い浮かべるのが「紅葉（もみじ）」です。それではなぜ「紅葉」を「こうよう」以外に「もみじ」と読むようになったのでしょうか？時代は遡って平安時代からそう読むようになったと言われています。当時、植物から出る色素を使って染め物をするを「揉み出づ（もみいづ）」と言いました。衣服が鮮やかに染まる様と秋に紅葉の葉が色づく様に重ね合わせ、昔の人は「もみいづ」という動詞を「もみじ」という名詞として使うようになったということです。ということで、現代では「こうよう」と読む時には、秋に草木が色を変えるという意味で、「もみじ」と読む時には、「紅葉（もみじ）」という樹木の名前を指す時に使っています。

また、「紅葉（もみじ）」によく似た樹木に「楓（かえで）」があります。正確に言うと「紅葉（もみじ）」はカエデ属に属し、「楓（かえで）」の中の一つなのです。見た目の違いはというと、「紅葉（もみじ）」の葉は切れ込みが深く、「楓（かえで）」の葉は切れ込みが浅いものとされていますが、明確な定義はないとのこと。園芸や盆栽の世界でこれらの基準を基に区別されてきました。これは日本特有の分類で、英語圏ではどちらもMaple（メープル）と呼んで細かに分類することはなく、つまりは日本独特の文化だと言うことができます。

そして、「紅葉（もみじ）」は「楓（かえで）」と区別されるほど、日本では昔から親しまれてきました。その美しさに和歌の中に歌われたものが多数存在します。よく知られている歌に、「奥山にもみぢふみわけ鳴く鹿の 声聞くとときぞ秋は悲しき」（古今和歌集 百人一首）や「このたびはぬさもとりあえず手向山 紅葉のにしき神のまにまに」（百人一首）などがあります。「紅葉（もみじ）」の「もみじ」も「悲しさ」や「美しさ」をベースにつくられた歌ですが、その繊細で「豊かな感性」に心洗われるような気持ちになります。

日本では誰しもが秋を連想する「紅葉（もみじ）」。「紅葉（もみじ）」のことについて、少し深く掘り下げてみると、日本の文化の奥深さに触れることができます。そんな豊かで美しい日本の自然や文化に心行くまで浸ることのできる日が早く来てほしいものです。

まだコロナ感染が収束するまでには時間がかかりそうですが、移り行く身近な季節を感じながら、これからも子どもたちの純粋で「豊かな感性」を大切に培っていきたいと思います。

甲南第一小学校 校長 松山 辰也



今年もお世話になりました



登下校の見守りやクラブ支援、学校の環境整備や研修会の開催、しらうめの発行、子どもたちの遊び支援に至るまで、地域や保護者、後援会の皆様には大変お世話になりました。

多くの制約のある中、変わらぬ温かな言葉かけや支援をいただき、心より感謝しております。2023年が、希望に満ちた明るい年になることを祈念しつつ、これからも子どもたちの見守りやご支援をよろしくお願いいたします。

教室はミュージアム

昨年に続き、図工室にてやまなみ工房さんによるミニ展示会が開かれました。自分の好きなこと、自分にできること、つくり出す行為を楽しむ等、周りに影響されることなく自分に忠実であることを大切にして生まれてきた作品が展示されました。ありのままの自分を出し出すことのすばらしさを私たちに伝えてくれています。第一っ子の「豊かな感性」をくすぐる3日間となりました。



ひとみ輝く第一っ子 よく学び・心豊かに・健やかに